

未来をひらく教育のつどい 2017年度高校・障害児学校教育研究会

「主張の裏付けを数値に頼ると 言うことは、最終権限を他人に委 ねること！」

川村喜美

未来をひらく教育のつどい
講師の鈴木大裕さん



の全体を決定するかのようにならねばなりません。講演の中の「主張の裏付けを数値に頼ると言うことは、最終権限を他人に委ねることである」「内的な強さと外的な尊敬に欠ける専門職だけが身を落として数値化しなければならぬ」「(デビッド・ラバー)にはおとさせられませんでした。そして、数値化によるその非人間性を共有し、それを眺

ね返すためにシカゴでは教職員が学力テスト反対のストライキを実施し、生徒も保護者も支援したことを初めて知りました！鈴木さんはご自身の子どもさんの学力テスト参加を拒否しているそうです。講演の後の実践発表では高校教育の分科会では「特別な教育的ニーズを持つ生徒の通級指導について」と、「学力定着検査のD3層の取組について」意見交換しました。また障害児教育では日々の実践を身体不自由養護学校から2つ発表があり、各校の実践も交流しながら学び合いました。採用2年目の教員からも実践発表があり、大変頼もしく感じました。何かと規制や締め付けの多い職場で、自分を見失わず、仲間とともに子どものために取り組んでいる姿にエールをおくりたいと思います。高退協としても子どもを守る活動に連携して取り組みたいと思います。

AIを使った兵器が軍人を死なさずに大量の人間を殺すことになる。兵器の究極が核爆弾である。科学の軍事利用は確実に効率よく人を殺すことにつながることをわれわれは常に考え続けなければいけない。

◇ ◇
池内さんが宇宙物理学者であり、科学者の視点で九条と最近の学問の軍事利用について丁寧に説明していただきとてもわかりやすい話でした。また、我々は安部政権の下、大変な岐路に立っているということを実感させられたお話でした。なお、この講演の要旨が11月14日(火)の「しんぶん赤旗」「高知新聞」に掲載されています。ぜひご覧になっていただきたいと思えます。

まちから村からの連帯
でひとりぼっちの高齢者
をなくそう
高退連会長 小澤 幸次郎

科学は平和と福利のために 科学の軍事利用に抗して！

池内さん(名古屋大学
名誉教授、九条の会世話人)
の講演を聴いて

大川 法由記

渡米し、その後アメリカの大学院で博士課程を終え、現在は土佐町で教育を通じてまちをおこしに取り組んでいる鈴木大裕さんが「アメリカの公教育の破綻 日本への警告」について話されました。今の日本の教育を考えると、示唆に富んだ興味深いお話でした。

「憲法公布70周年国民のつどい」が11月11日(土) 県民文化ホール(グリーン)で行われ、名古屋大学名誉教授池内さんのお話を聞くことができました。

①岐路に立つ日本、安部政権の下での日本の危機
私たちが日本人は第九条より戦争をしない国を選んだ。

言い換えれば為政者に戦争をしないということを認識させる条項であるともいえる。しかし、安部政権の下で戦争のための3点セット(特定秘密保護法、安保関連法、共謀罪)が整えられ、戦争をできる国へと一気に覆る状況になり、私たちはいよいよ正念場にかかっている。



②安部内閣での科学の軍事化の急進展
「大学・研究機関との連携を深め、防衛にも応用可能な民生技術(デュアルユース)の活用を努める。」(2013年閣議決定)

デュアルユース研究への予算が15年度3億円(応募109件)、16年度6億円(応募44件)、17年度11億円(応募104件)。16年度の応募激減は大学の運動の成果もあるが、抗議運動を地方紙が報道し、大学が応募していることを市民に知られることを嫌がったことなどが考えられる。17年度予算と応募の増加は企業の急増(大型・大口化)による。

11月11日(土)に「憲法、子どもの権利条約を教育に生かそう！」をテーマにちより街テラスで行われました。多忙な現職の教職員が日頃の教育実践を交流し合い、今後への展望を切り開こうと熱心に参加している姿に、安堵するともに励まされました。

③宇宙の軍事化の進展
89年衆参両院で「宇宙の平和利用」が決議されたが、北朝鮮のテポドン発射以来宇宙の軍事利用が強められた。03年情報収集衛星打ち上げ。国は常に10台以上存在することを目指している。しかし、東北震災で大津波のデータは一切提供されていない。中国の漁船が大量に出現したときは公表されている。

④学問(科学)の「原点」は憲法の精神である
将来の戦争は恐ろしいことになる。空、海のドローンや

第31回高知県高齢者大会が、十一月二十九日(水)午後一時より四時三十分までこうち男女参画センターソールで開催され、53名が出席した。

きらりミュージッククラブの演奏でオープニングとなり、開会のあいさつでは、会長が日本高齢者大会の歴史と活動について話された。つづいて高橋健事務局長より基調報告が行われた。記念講演は「住み慣れた地域で在宅医療のなはし」と題して高知生協病院在宅医療センター所長原田健氏が講演された。その後、第1ー認知症予防のための脳いきいき教室、第2ー終活・エンディングノート、第3ーあなたも今日だけマジシャンに(マジック体験)、第4ー病院が無くなるかもしれない！地域医療のゆくえ等の分科会がもたれ頭と体を使った研究と楽しい交流の時をもった。最後に、山岡副会長の閉会のあいさつで午後四時半すぎ閉会した。

なお、二〇一七年第31回日本高齢者大会IN沖繩(10/28(土)・29(日))は、台風のため、初めて中止となった。高知県からは、二日間、28名が参加する予定になっていた。本大会に残留です。次回開催地は未定である。

